

LOBO

業況DIは横バイ圏内の動き

日本商工会議所が発表した昨年12月の全産業合計の業況DIは▼15.7と、前月から▼0.8ポイントのほぼ横ばい。建設業や設備投資に加え、自動車や産業用機械関連が堅調に推移する状況が続いているほか、インバウンドを含む冬の観光需要の増加を指摘する声も聞かれた。他方、人手不足の影響拡大や原材料費の上昇、根強い消費者の節約志向が引き続き中小企業のマインドに影響を及ぼしており、業況改善に向けた動きには足踏み状況が見られる。

業種別では、建設業は都市部の再開発や設備投資、オリンピック関連を中心とする民間工事が堅調に推移し改善。製造業は、自動車や産業用機械関連を中心に堅調に推移する一方、鉄鋼をはじめとした金属材料や原材料価格の高止まりが業況感を押し下げほぼ横ばい。卸売業は、生育が好調な農産物の価格下落が平年より進み、売上が減少したとの声や、冬物商材の需要が低迷しているとの声が

聞かれ悪化。小売業は、消費者の根強い節約志向に苦戦する声が依然として多く悪化。平年よりも気温の高い日が続き、冬物衣料の動き出しが遅れたとの声も聞かれた。サービス業はほぼ横ばい。深刻な人手不足の影響拡大が続く一方、年末商戦に加え、ネットショッピングによる配送需要が好調な運送業や、年末の観光需要を取り込んだ飲食・宿泊業が底堅く推移した。

先行きについては、先行き見通しDIが▼5.1（今月比+0.6ポイント）とほぼ横ばいを見込む。年末年始の商戦を契機とする個人消費拡大や、観光需要拡大、生産・設備投資の堅調な推移への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁遅れ、貿易摩擦など世界経済の不透明感、消費増税の影響を懸念する声も多く、中小企業の業況感はほぼ横ばいで推移する見通し。（山形商工会議所など全国423会議所・3727企業ヒヤリング）